

電子マニフェストの 運用事例について

福岡大学環境保全センター
井上 英樹

本日の内容

1. 福岡大学の紹介
2. 廃棄物処理状況について
3. 電子マニフェスト導入のメリット
4. まとめ

1. 福岡大学の紹介

福岡大学の概要（1）

◇名称

学校法人福岡大学

◇創立

1934（昭和9）年

◇構成

福岡大学、福岡大学病院、
筑紫病院、附属大濠中学・高校、
附属若葉高校 他

◇学生・生徒数

学生数：20,417名、生徒数：3,479名

◇教職員数

教員：1,556名、職員：2,518名



福岡大学の概要（2）

◇学部・学科 9学部31学科

文系学部：人文学、法学、経済学、商学

理系学部：理学、工学、医学、薬学、
スポーツ科学

◇大学院

10研究科34専攻

◇留学生別科

◇協定校

19カ国・地域 53大学1機関



福岡大学の概要（3）

◇福岡大学環境保全センター

（設置の趣旨）

本学における教育研究活動及び医療活動に伴う公害の発生を防止し、職員、学生及び市民の生活環境の安全を図り、環境保全の向上に寄与する。

（主な業務）

- ・ 環境保全に関する企画・立案、指導・助言
- ・ 環境教育に関する業務
- ・ 環境測定・調査及び報告に関する業務
- ・ 化学物質の適正管理に関する業務
- ・ 廃棄物の適正管理及び適正処理に関する業務
- ・ その他、環境保全に関する業務全般

2. 廃棄物処理状況について

廃棄物処理状況（1）

◇一般廃棄物

発生源で分別後、集積場で再分別・・・

可燃物及び不燃物（750t/年） ➡ 市の処理施設へ

資源化可能物（350t/年） ➡ リサイクル業者へ

（古紙、缶類、PETボトル）

◇産業廃棄物・特別管理産業廃棄物

実験廃棄物

医療廃棄物

実験動物

その他

（700t/年）

➡ 産業廃棄物処理業者へ

廃棄物処理状況（2）

◇福岡大学の産業廃棄物処理状況（特管含む） 及びマニフェスト交付件数

- ・ 実験廃棄物（実験廃液、固体廃棄物、廃試薬）
➡ 約20t/年，約100件/年
- ・ 医療廃棄物（感染性、疑似感染性、その他）
➡ 約480t/年，約1,500件/年
- ・ その他（汚泥、機器類、その他）
➡ 約200t/年，約200件/年

廃棄物処理状況 (3)



廃棄物の組成調査



処理委託の立会

産業廃棄物管理票 (マニフェスト) A票	
発出者 学校法人福岡大学 〒814-0180 福岡県福岡市東区七隈八丁目1-9番1号	受取者 学校法人福岡大学 〒814-0180 福岡県福岡市東区七隈八丁目1-9番1号
発出者 〒814-0180 福岡県福岡市東区七隈八丁目1-9番1号	受取者 〒814-0180 福岡県福岡市東区七隈八丁目1-9番1号
種類 2000 廃棄物 2001 廃棄物 2002 廃棄物 2003 廃棄物 2004 廃棄物 2005 廃棄物 2006 廃棄物 2007 廃棄物 2008 廃棄物 2009 廃棄物 2010 廃棄物 2011 廃棄物 2012 廃棄物 2013 廃棄物 2014 廃棄物 2015 廃棄物 2016 廃棄物 2017 廃棄物 2018 廃棄物 2019 廃棄物 2020 廃棄物 2021 廃棄物 2022 廃棄物 2023 廃棄物 2024 廃棄物 2025 廃棄物 2026 廃棄物 2027 廃棄物 2028 廃棄物 2029 廃棄物 2030 廃棄物 2031 廃棄物 2032 廃棄物 2033 廃棄物 2034 廃棄物 2035 廃棄物 2036 廃棄物 2037 廃棄物 2038 廃棄物 2039 廃棄物 2040 廃棄物 2041 廃棄物 2042 廃棄物 2043 廃棄物 2044 廃棄物 2045 廃棄物 2046 廃棄物 2047 廃棄物 2048 廃棄物 2049 廃棄物 2050 廃棄物 2051 廃棄物 2052 廃棄物 2053 廃棄物 2054 廃棄物 2055 廃棄物 2056 廃棄物 2057 廃棄物 2058 廃棄物 2059 廃棄物 2060 廃棄物 2061 廃棄物 2062 廃棄物 2063 廃棄物 2064 廃棄物 2065 廃棄物 2066 廃棄物 2067 廃棄物 2068 廃棄物 2069 廃棄物 2070 廃棄物 2071 廃棄物 2072 廃棄物 2073 廃棄物 2074 廃棄物 2075 廃棄物 2076 廃棄物 2077 廃棄物 2078 廃棄物 2079 廃棄物 2080 廃棄物 2081 廃棄物 2082 廃棄物 2083 廃棄物 2084 廃棄物 2085 廃棄物 2086 廃棄物 2087 廃棄物 2088 廃棄物 2089 廃棄物 2090 廃棄物 2091 廃棄物 2092 廃棄物 2093 廃棄物 2094 廃棄物 2095 廃棄物 2096 廃棄物 2097 廃棄物 2098 廃棄物 2099 廃棄物 2100 廃棄物	備考 45/111 111 コナブ PCB 廃棄物 化学処理 741(2000)32777-80

マニフェストの交付



収集運搬の追跡調査



処分場確認調査

発生段階から処理の確認まで、業務負担が大きい

➡ 業務の効率化を目的に電子マニフェストの導入を検討

3. 電子マニフェスト導入のメリット

マニフェスト制度の概要

(排出事業者の責務)

事業者は、その産業廃棄物を自ら処理するか、またはその許可を有する者に委託して適切に処理しなければならない。

(廃棄物処理法 第11条、12条)

不法投棄をはじめとした不適正処理の問題が発生

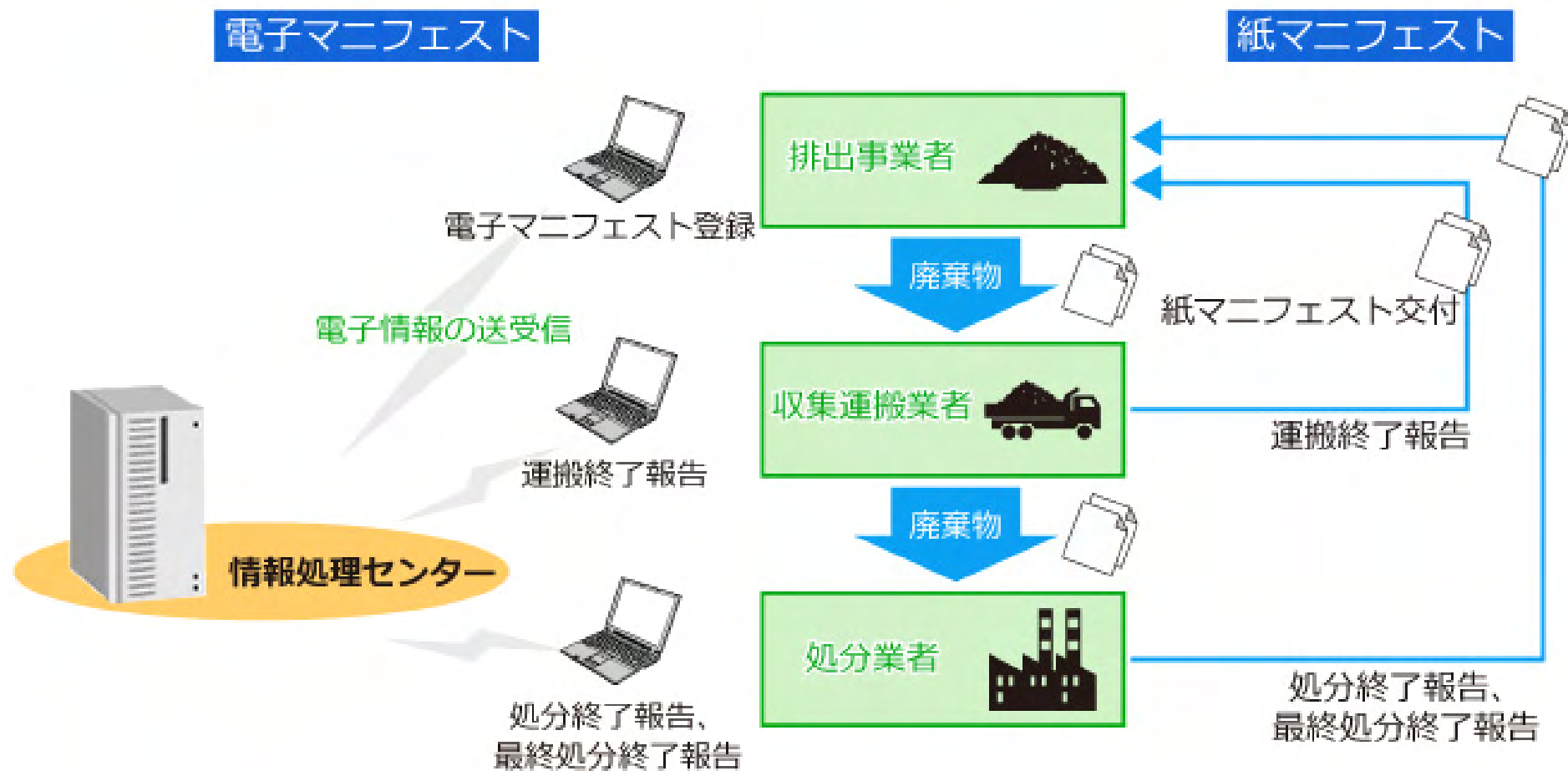


平成5年マニフェスト制度が導入

(目的)

産業廃棄物の行き先を排出事業者自ら管理し、不法投棄等の不適正処理を未然に防止

マニフェストによる管理の流れ



(JWNET HPより)

紙マニフェストで排出事業者が実施すること

①マニフェストの交付

②処理終了報告の確認

・ 運搬・処分の確認

➡ 90日以内

(特管は60日)

・ 最終処分の確認

➡ 180日以内

③マニフェストの保管

➡ 5年間

④交付等状況報告書の提出

➡ 1回/年 (都道府県知事等)

電子マニフェストのメリット

①マニフェストの交付

➡ 入力操作が簡単（時間短縮）、入力漏れの防止（法令遵守）

②処理終了報告の確認

➡ メールで終了報告や期限切れ警告（法令遵守、時間短縮）

③マニフェストの保管

➡ 情報処理センターで一元管理（省スペース）

事後の情報管理が容易（時間短縮）

④交付等状況報告書

➡ 情報処理センターが報告（時間短縮）

電子マニフェストによる時間短縮効果

◇本学で導入している約100件の電子マニフェストについて時間効率を考えると・・・

業 務	所要時間 (分/年)		全体に導入	
	紙	電子	時間/年	
1. 発行業務	300	30	100	→ 10
2. 管理業務	60	30	20	→ 10
3. 交付等状況報告業務	60	0	20	→ 0
合 計	420	60	140	→ 20

電子マニフェストの導入により
時間を 1/7 に短縮！

年間約120時間の
節約が可能！

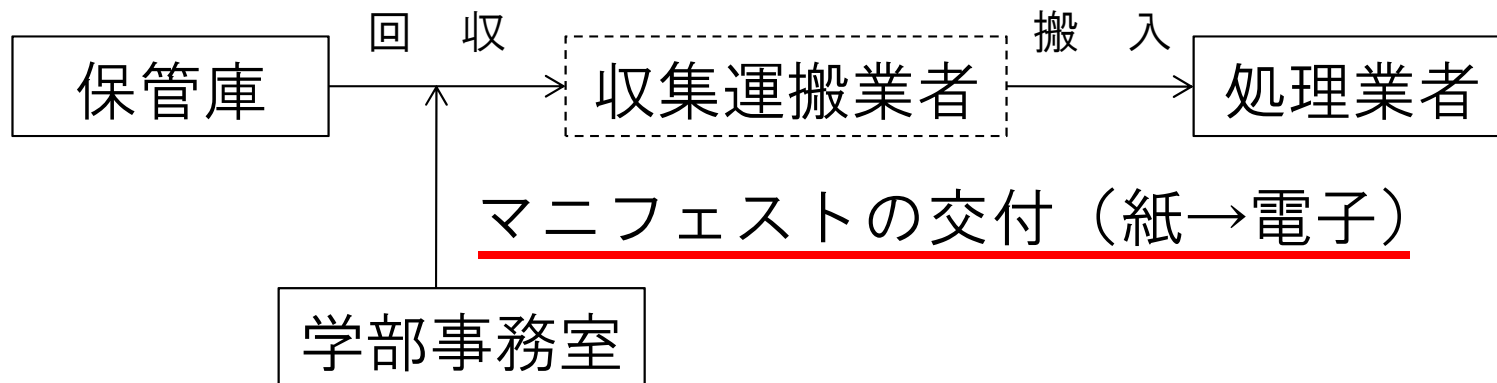
もう一つのメリット

◇実験廃棄物の処理フロー

・発注



・処理



担当者の業務

◇処理委託時

- ・ 処理委託内容の確認
- ・ 携帯用端末への承認コードの入力

紙マニフェストへの記入、押印 → 不要

◇処理委託後

- ・ 処理終了メールの受信
- ・ 期限切れ警告メールの受信

終了処理期限の確認

管理票の保管

交付等状況報告書提出

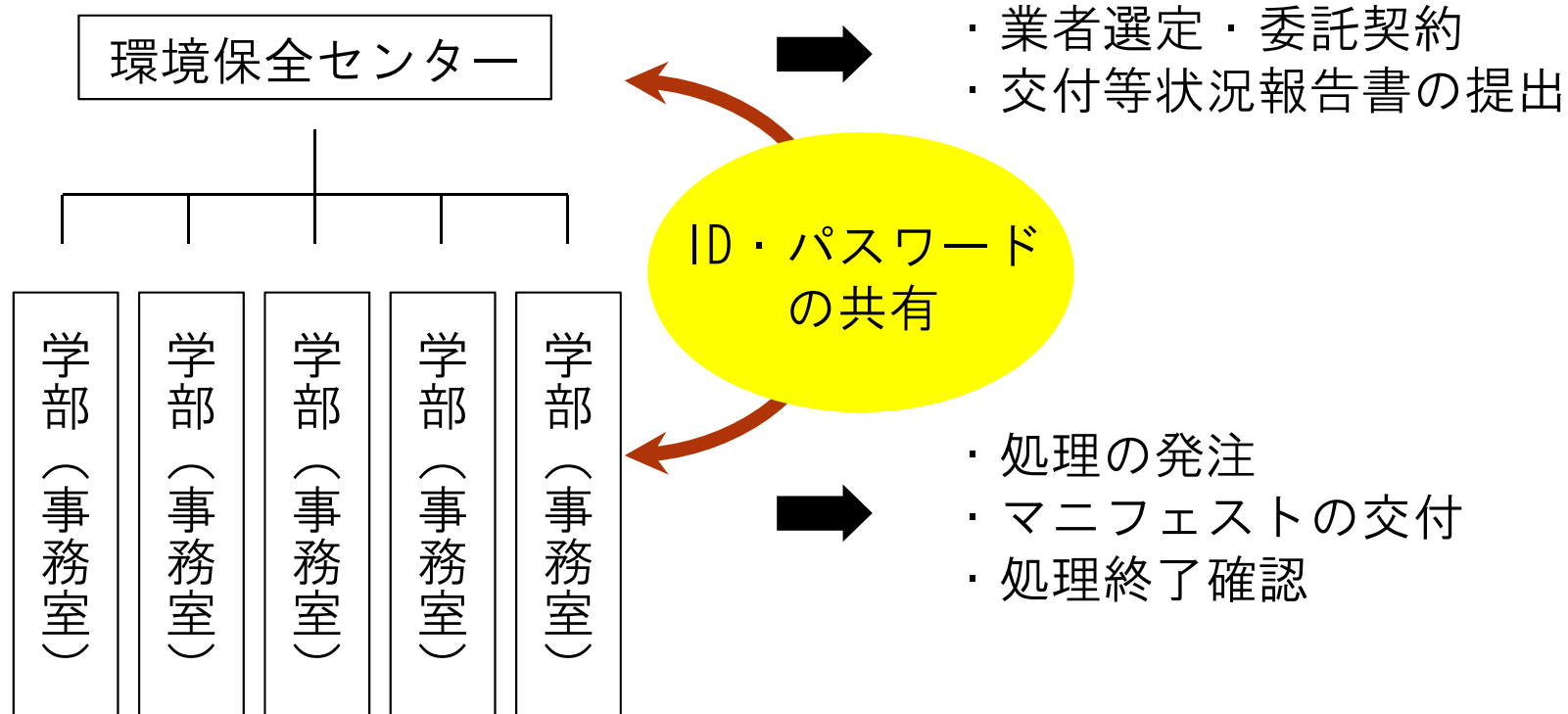
→ 不要

問題点

- ・ 担当者が必ずしも専門的知識を有していない
- ・ 管理が学部単位で全体把握が難しい

もう一つのメリット

福岡大学における
実験廃棄物の処理体系



- ・ 学部事務室と並行してセンターでの管理が可能
- ・ 大学全体の一元管理が可能

4. まとめ

◇電子マニフェストの導入により . . .

①業務の効率化が可能となった。（時間短縮）

②適正管理の向上及び

全学的な一元管理が可能となった（運用改善）

◇今後の予定

・電子マニフェストを全学的に導入

ご静聴ありがとうございました。

